

■ ■ 驗温器のお蔭で子供の命拾ひ

東洋家政女學校長 岸邊 福雄

遠方への旅行には、假令大人ばかりであつても餘程用心しなければ、途中で急病等が起つたら、單に難儀するばかりでなく或は醫藥の手當が後れたりして、意外の大事を惹起することがある。況して自ら身を衛ることが出来ない小兒を同伴した場合などには、親達は一層周到なる注意を拂つて遣らなければなりません。

此話はまだ七回程以前のことであり、學校の方が夏の休暇になりましたので、當時六歳に四歳に生後五六ヶ月の乳兒との三人の子供を連れさせて、家内を私の郷里なる丹波に遣したことがありました、其時一番末の乳兒の健康が、長途の旅行に堪え得るか否やが少しく懸念せられたものだから、懇意の醫師に頼んで健康診断をして貰ひました。で序だから他の二兒の診断をも乞ひましたが、三人とも大丈夫だとのことになり安心して出立させたのであります。

併し私は旅行の場合、殊に子供連れの時の如きに、必ず驗温器と水枕とを用意することにしてゐますから、此時にも忘れず持たせて遣り、途中名古屋あたりで一度、又京都邊に行つたら今一度各兒の體温を驗して見るやうに、それから子供等の大便は必ず新聞紙へなり受けて一應検査するやうにと申付け尙箱根を越す時には、隧道が多いので屢々汽笛を鳴らし、且つ轟然たる音響が續くのであるから、乳兒にだけは綿にて耳に栓を爲てやり、成るべく驚かさぬやうに爲すべしなど注意して、新橋まで見送つて、一等に乗せて立たせました。未だ父親の私は一

等に乗つたことはありませんでしたが、幼児三人まで連れての長旅のことだから、見榮や贅澤ではないが、衛生を思へば雑沓してゐる汽車の三等や二等には乗せられなかつたのです。

家内は私の申し付けた通り名古屋で一、二度各兒の體温を驗した方が別に異状は無い。次で夜の明方を京都に着いたから又驗温器を當て、見ると今度は上のと乳兒とは無事であつたが中の四歳になる子が一人少々熱が有る。だが大した事もあるまいと、其儘神戸まで行きますと、同地には知人が在つたものだから、停車場まで来てゐてくれて、お菓子や玩具等を子供達に與へたけ

れど、上の姉は大層悦んだが次の子は如何にも大儀さうに見えて元氣が無い。そこで家内も氣がゝりなものだから又々驗温器を當て、體温を見ると殆んど四十度の熱が出てゐる。次に大便を新聞紙に受けて検査して見ると白い粘便に少量の血が混つてゐるのです。之は捨て置かれぬと猶豫なく姫路に下車して、直に病院に連れ込んで院長の診察を乞ひますと、急性の大腸加答兒即ち疫痢に罹つてゐたので、餘程病勢が進んでゐるのでした。

旅の空で斯様な大事が突發して、然も他にまだ二人の幼兒を伴つてゐるのですから、家内も

大きに心痛致し、院長も首を傾けて何彼の注意も有つたものだから、畢に危篤の電報を打つて來ました。

其時私は一人東京に留守居をしてゐて、最う郷里に着いた時分だが、途中は無事であつたか知らんと案じてゐる所でしたから、大方安着報知の電信だらうと思つて開いてみると大違ひ、子供が途中で危篤といふのだから驚きましたね、東京にも離し難い要件があつたのですか、そんな事は言つてゐられない、即刻出發して姫路に向ひました。成程斯様な時には汽車の馳り方が平日よりも遅いやうに思はるゝものですよ。其内に漸やく

姫路に着きましたから、急いで病院に行つてみますと幸にも手當が早かつたため命には別條なく、其後日を追うて快方に向ひ廳がて日ならず退院して丹波の郷里に行くことが出来ました。

其時は實に驗温器のお蔭で愛兒の生命を拾つたのです。萬一驗温器の用意がなくて、子供の發熱を左迄の大事とも氣付かずうっかりしてゐて其儘郷里まで乗り續けたら、姫路からまだ三時間の餘もかゝるのですから、屹度取り返しの付かぬ不幸を見ただであらう。或は郷里に着かぬ間に汽車の中で死んで了つたかも知れぬと思ふと、今でもぞつととして寒氣を覺ゆるのです。そ

れ以來一層驗温器の有難味が解りました。

これは私が見た話なのですが或夏の旅行中、同じ汽車に乗り合した四十才位の紳士が五六歳のお嬢さんを連れてゐましたがその娘が眠氣を催すと他人の迷惑にならぬ範圍内に寢場所を設けてやり、鞆の中から二三尺の針鐵を取り出したから何をするのかと思つて見てゐると、それを半圓に曲げて窓側に挿し、横に娘の顔の上に出るやうにして其上からペールのやうな薄い布を覆ふたから即座に枕蚊張が出来た。成程斯うすれば煤煙が飛んで來ても眼や鼻に入る氣違ひはなく、子供も樂に眠れるだら

うと感心した。この紳士は尙時々ハンケチで娘の汗を拭うてやり、廳がて娘が眼を覺して起き上がると、鞆の中から着替を取り出して、汗の泌みてゐない衣服と取り替へてやり、用意の水にて手拭を濕し、叮嚀に又顔を拭いてやつてゐました。私は婦人も及ばぬ此紳士の世話振りに子を愛する真情が溢れてゐるのを見て、何とも言へぬ麗しい感じに打たれました。

〔家庭と趣味七月號〕